

2014.5.31

災害後の子どもの心のケア・心のサポートについての養護教諭の先生へのアンケート結果 要旨

日本心理臨床学会支援活動委員会・調査研究プロジェクト
「大規模自然災害後における学校での心理支援の在り方に関する研究調査」

班長：山本 奨・副班長：藤代富広・鈴木貴子

日本心理臨床学会・支援活動委員会委員長：富永良喜

東日本大震災により甚大な被害を受けた県のうちに、調査実施についてご協力をいただいた県の養護教諭の先生方に、発災から 2 年半をふりかえり、下記の通りご回答をいただきました。ここに深く感謝の意を表するとともに、結果の概要をご報告いたします。

1、調査協力校

表 1 調査協力校の校種と回収校数について

| | 配布校数 | 回収校数* | 回収率 | 備考 |
|-----|------|-------|-------|-----------|
| 小学校 | 355 | 204 | 57.5% | |
| 中学校 | 173 | 97 | 56.0% | 小中合同校3校含む |
| 高校 | 76 | 42 | 55.3% | |
| 特支援 | 16 | 5 | 31.3% | |
| | | 5 | | 未記入 |
| 合計 | 620 | 353 | 56.9% | |

表 2 沿岸と内陸の学校数

| | 回収校 | 備考 |
|----|-----|-----|
| 沿岸 | 92 | |
| 内陸 | 257 | |
| | 4 | 未記入 |
| 合計 | 253 | |

このデータは、2013 年度に養護教諭が勤務している学校の数です。

2、実施時期と実施手順

被災 A 県の公立の全学校の学校長・養護教諭宛に、2013 年 10 月初旬に、A3,裏表 1 枚のアンケート用紙を郵送しました。回答期日は同年 12 月 25 日としました。

3、結果

1) カウンセラーの活動に対する子どもたちの感想は、4. とてもよかった 3. まあよかった 2. あまりよくなかった 1. 全くよくなかった

図1-1 沿岸と内陸での時期によるカウンセラーの活動への感想（実数）

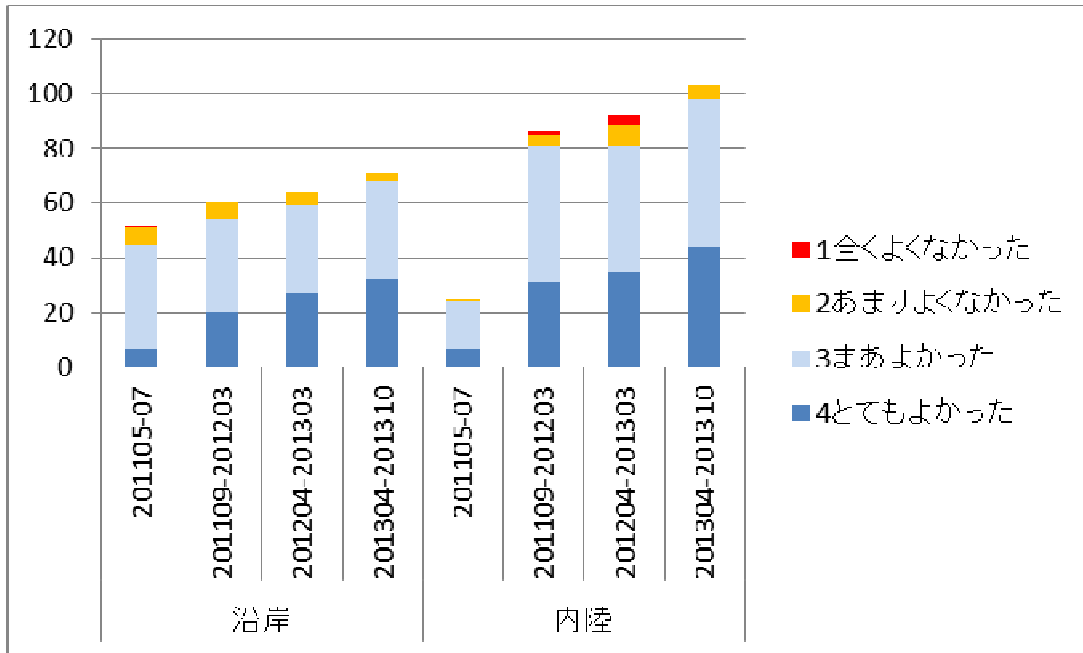
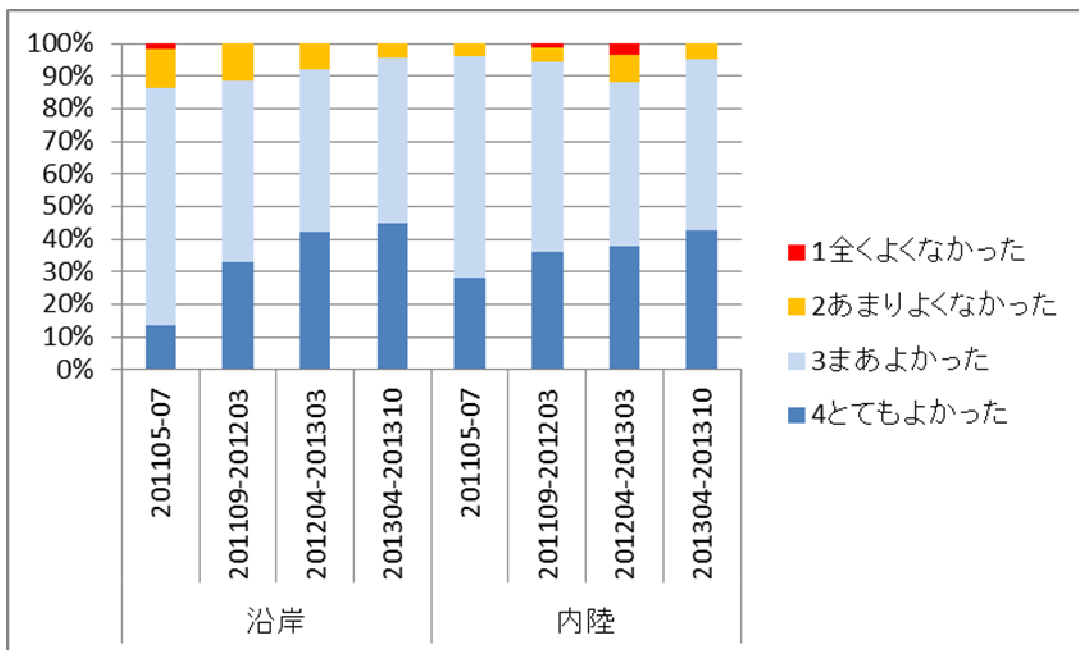


図1-2 沿岸と内陸での時期によるカウンセラーの活動への感想（パーセンテージ）



2) 心のサポート活動／心とからだの健康観察に対する子どもたちの感想は、4. とてもよかった 3. まあよかった 2. あまりよくなかった 1. 全くよくなかった

図2-1 沿岸と内陸での時期による心のサポート活動／心とからだの健康観察への感想（実数）

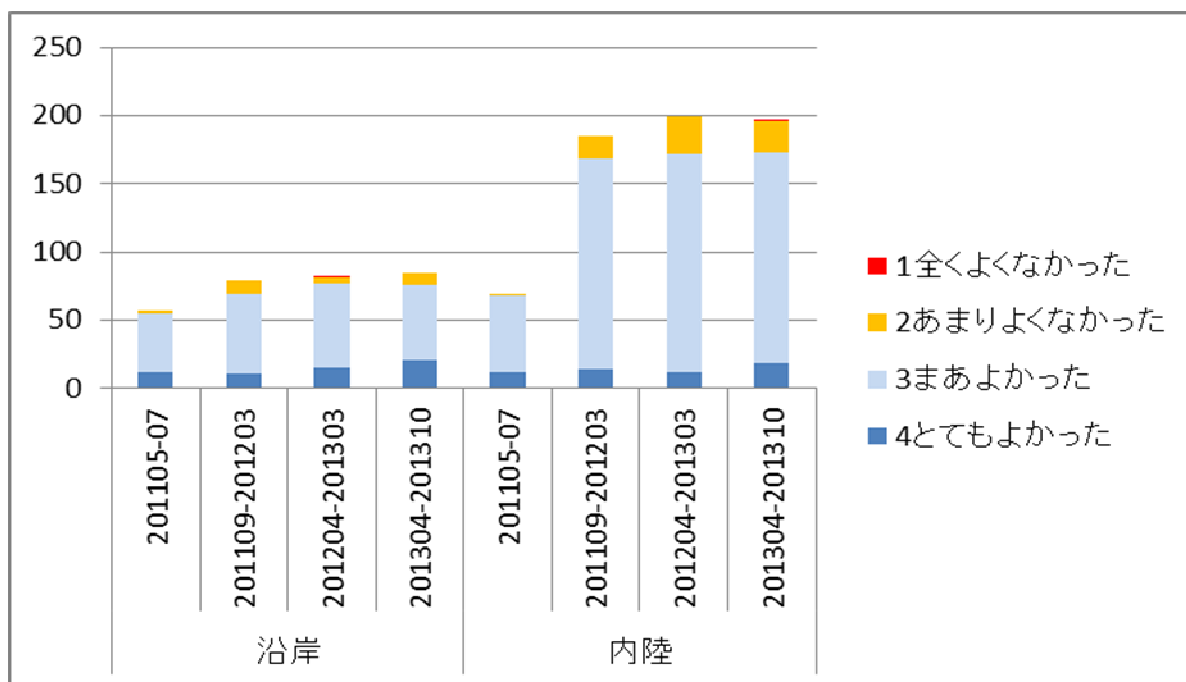
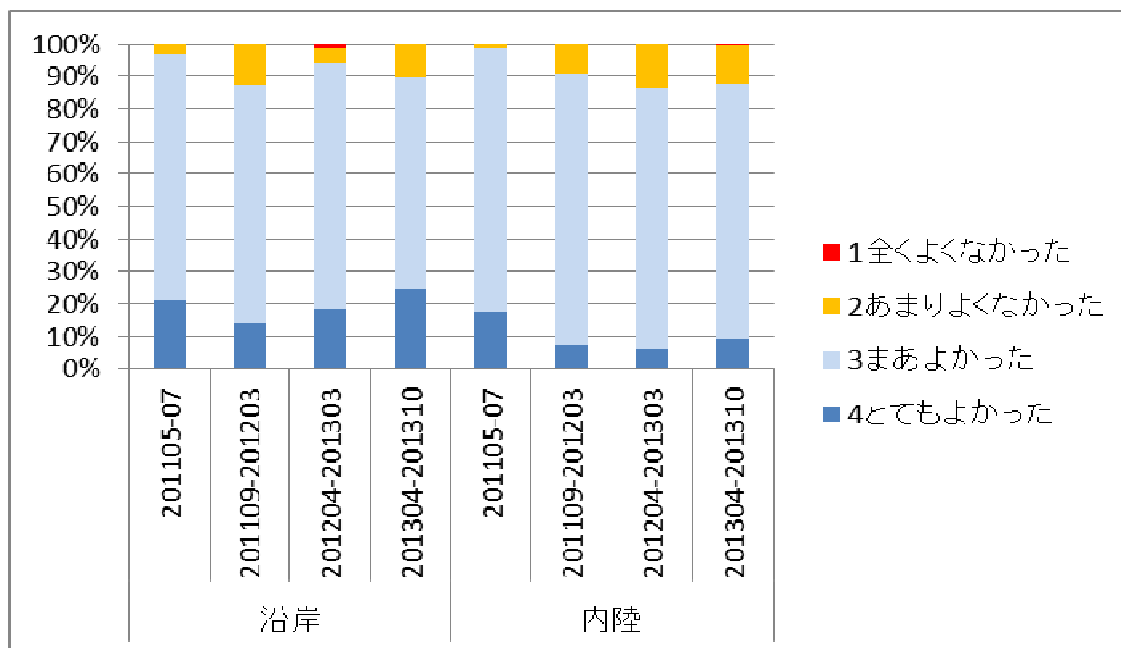


図2-2 沿岸と内陸での時期による心のサポート活動／心とからだの健康観察への感想（パーセント）



3) 急性期 (2011年5~7月) の心のサポート活動やカウンセラーとの心のケア活動について、よかったこと、よくなかった(こうあったらよかった) ことをお書きください。

表3 沿岸養護教諭の感想のまとめと感想例

よかった (15件)

- ・ ゆっくりと話を聴いてもらえたので、子ども達は安心して過ごすことができました。自分は大切にされていると感じることができたようです。
- ・ リラックス法の指導は、子ども達の心の安定につながった。被災生徒、保護者のカウンセリングは、とても良かった (保護者の安心につながった)。
- ・ リラックス法等心のケアの授業を行っていただき、教職員も支援を受けた。しかし、6週間(週2日)6人のカウンセラーさんが交代でサポートして下さったが、出来れば同じ人の方が支援を受ける側としては良いのではと思った。〇県のカウンセラーさん方でしたが、とてもお世話になりました。
- ・ 学校や地域が混乱し、学校は避難所となり、子ども達は落ち着かない状況であった。週替わりではあったが、カウンセラーさんに来ていただき、相談できたり心のケアに当たっていただいたことは、とても助かった。
- ・ 気になる児童についてすぐに相談にのっていただけだったので、とても良かった。
- ・ 子どもはもちろん、学校職員のメンタルも支えてもらった。

よかったがもっとこうだったら (8件)

- ・ 5~6月の混乱した時期に早くからカウンセラーに来ていただき、心強く思ったが、自分たちが何を相談したらいいかわからず、うまく活用できなかったように思う。
- ・ お忙しい中でのサポートは、一週間交代でやっと様子が理解していただけるころに変わるのので、養護教諭のコーディネートの時間が多く必要とされました。ほとんどはスーパーバイザーとしてご支援をいただきました。
- ・ カウンセラーの活動は有り難かったが、緊急派遣のため一週間交代のため、相談するための余裕がなかった。毎週大体の学校や児童の状況の説明からスタートが必要。相談したい児童への対応の仕方について、それぞれのカウンセラーによって異なることがあること。
- ・ すぐ支援に入っていただいたのは良かった。6週間で1週間ごとにSCがかわったので、継続と言う意味では足りなかった。その後の配置がどうなるかも不安だった。
- ・ カウンセラーさんはとても良かった。つとめてくださる方も急で大変だったと思う (住居とか) が、できれば同じ人だといいなと。

よくなかった（17件）

- ・一週交代でカウンセラーが来校したが、その都度保健室で毎回同じ話をしなければならなかった。引き継ぎはできなかったのか。早く同じ人が来れるようにしてほしいと思った。学校でも毎回教室を案内しなければならなかったので、大変だった。
- ・何とか学校を落ち着かせようと一丸となっている時期だったので、外部からの支援者に対しては、この時期はむしろストレスを感じていた。
- ・緊急時に来ていただいて、心を開かせたまま完結せずに去って行かれて、あとからとても困ったケースがありました。
- ・緊急派遣は、一人の滞在が2週間と短く、引き継ぎに苦労したような思い出がある。担当県がその後支援したいと申し出て、連絡先を教えて帰った。
- ・週1回いろいろな方が県外から来ていただいたが、出来れば同じ方がまとまった日数いてくれる方が子ども達の理解・支援で有効かなと思いました。

その他（3件）

- ・全校生徒向けに、ストレス反応やその対処法について指導を行えばよかったと思う。あまりにも被災状況がひどく、また個人差があり、様子を窺ってしまった。
 - ・本校は被災は少なかったが、どの子にもケアが必要だと思う。しかし「本当に必要としている人(被災の甚大な学校)へ必要とされるケア活動が届いていない」という状況をきくたびに被災が少ない自分たちがサポートを受けること、どうしたら良いのか迷う毎日であった。
-

4) 2011年4月～2013年10月までの避難訓練・防災講演会・防災学習・津波警報注意報発令での児童生徒の心身反応

児童生徒の心身反応が、強くみられたものに◎、少しみられたものに○、みられなかったものに／、実施しなかった・なかったものに×を、してください。

- 1.避難訓練 2.防災講演会 3.防災学習 4.強い地震や津波警報注意報（2012年12月7日のような） "

図3-1 避難訓練・防災講演会・防災学習・津波警報等の子どもの心身反応（実数）

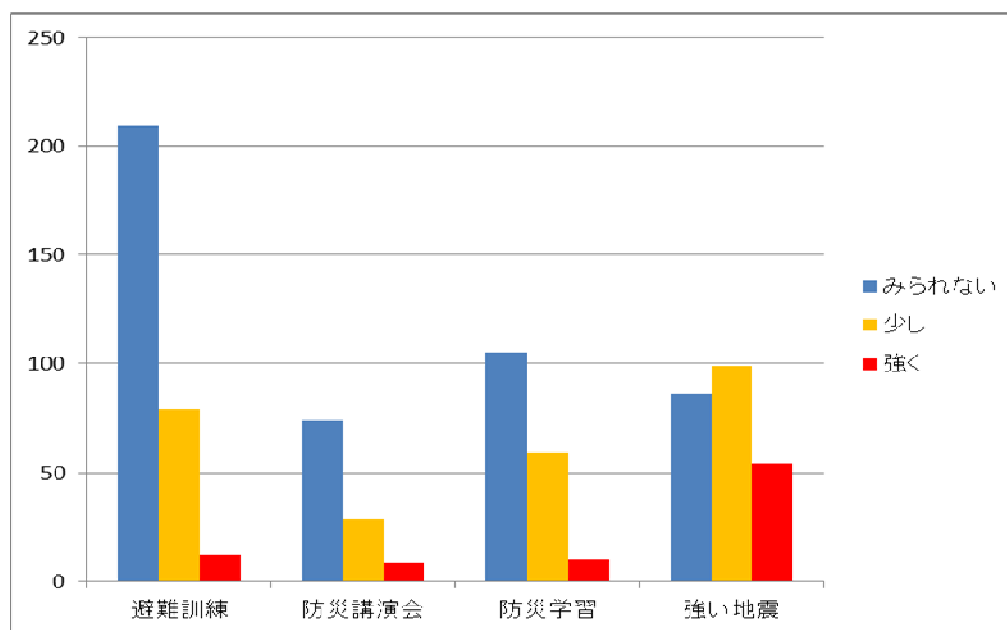
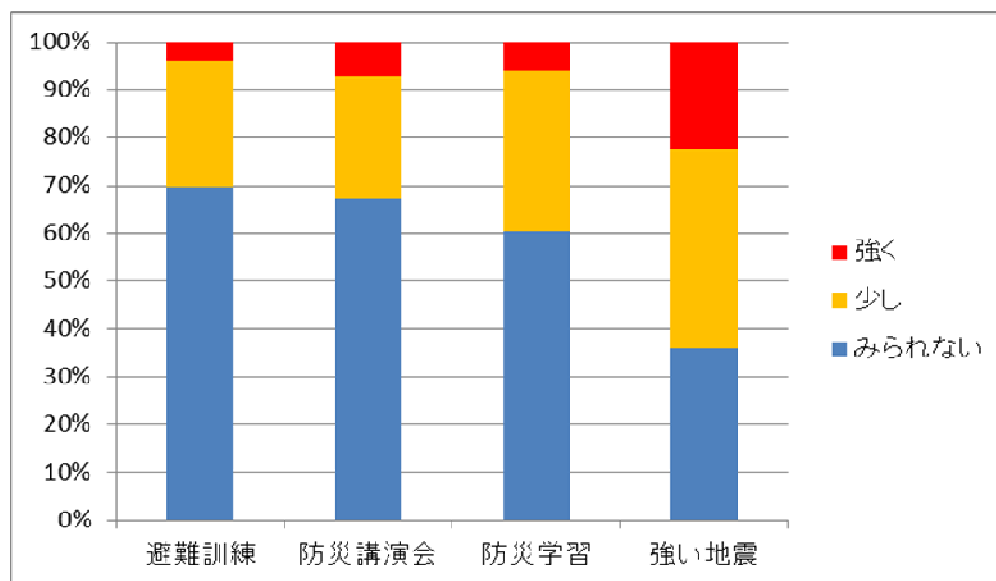


図3-2 避難訓練・防災講演会・防災学習・津波警報等の子どもの心身反応（パーセント）



4. 考察

本調査は、養護教諭の先生お一人お一人が、2年半をふりかえって、ご自身の勤務された学校での子どもの心のケア・心のサポートについて、「主観的な印象」でご回答いただいたものです。

1) カウンセラーの活動に対して子どもの感想について

「まあよかった・とてもよかった」の合計は87%から96%の間にあります。これは、養護教諭の目から、子どもたちにとってカウンセラーの活動は90%前後は好意的に感じていると思っているということです。一方、「とてもよかった」は、12%から43%でした。ただし沿岸・内陸ともに、年度とともに「とてもよかった」の割合が上昇しています。

2) 急性期の緊急派遣スクールカウンセラーのあり方について

2011年5月から7月の間に、リラクセス法などの心のサポート活動を実施した学校の子どもの96.5%が「まあよかった・とてもよかった」と思うと回答しています。一方、この時期の心のサポート活動の良かった点と良くなかった点の自由記述からは、カウンセラー交替への不安や不満が多く記載されています。沿岸部の学校への緊急スクールカウンセラー派遣は、一つの学校にほとんどが週に2回しか一人の人がはいれなかったことから、このような感想となったと思われます。今後起こりうる大規模災害での急性期のカウンセラー派遣について貴重な声だと考えられます。

3) 防災教育や津波警報と心身反応

避難訓練にて強い心身反応を示す児童生徒は12校、3.4%でした。避難訓練自体は安全な活動ですが、強い心身反応を示すということは、ふだん、津波に関係する安全な刺激（津波という言葉など）を回避していることが考えられます。心のサポート活動をとりいれた防災教育のさらなる充実が望まれます。

4) チームアプローチとスクールカウンセラーの長期的な配置について

本調査対象のA県は発災から2週間後にはスクールカウンセラーと指導主事で構成する心理支援チームを立ち上げ、急性期の心のサポート授業案、8年間継続実施の心とからだの健康観察を作成し実施しました。また2011年7月の時点で県教育委員会が沿岸部の全学校にスクールカウンセラーの急性期の活動と今後のあり方の希望調査を行いました。その結果、9月から沿岸部に教育事務所・市教委に配置する巡回型スクールカウンセラーを全国公募し、平成23年度は7名、平成26年度は15名が配置され、地域の小学校と中学校を担当しています。

本調査結果の詳細は、本年8月25日、横浜パシフィコで開催されます日本心理臨床学会第33回大会の支援活動委員会企画シンポジウム「大災害後の心理支援のこれまでとこれから」にて公開にて報告される予定です。

貴重な声をお寄せいただきました353名の養護教諭の先生方に感謝申し上げます。